



相談を受ける側とする側に分かれてピアカウンセリング研修に臨んだ高校生たち。中には涙を流す者も

**悩みを仲間と共有し
一歩を踏み出す**

「もし今、あなたやあなたの彼女が妊娠してしまったらどうする?」互いに顔を見合せ、話し込む高校生たち。その表情はいつになく真剣だ。

ここは、メキシコで開発が遅れている地域の一つ、東部ベラクルス州。農村部を中心に先住民が多く住む地域であり、貧しさに苦しむ人々は少なくない。近年は、正しい性教育や知識の不足による、十代での妊娠やHIV/エイズの拡大なども深刻化している。

PLAYERS

国際協力の担い手たち

自治医科大学

自分たちの未来は “仲間”と共に

若者の性の健康教育の手法として、日本で「ピアカウンセリング」の普及に長年取り組んできた自治医科大学。その経験が今、さまざまな悩みや不安を抱えるメキシコの高校生に、未来を切り開くための大きな力を与えている。



ピアリーダーたちによる、地域が抱える問題を描いた壁画



研修で高校生たちに自分を受け入れることの大切さを伝える高村さん



2008年2月、ピアカウンセリングを学んだ自治医科大学看護学部の日本人学生が草の根技術協力事業の一環で現地を訪れ、地元のパリアーダーたちと情報交換を行った

高校生たちが取り組んでいるのは、性の健康教育の手法の一つ、「ピアカウンセリング」。「ピア」(Peer)とは英語で「仲間」を意味し、世代や境遇を同じくする者同士が悩みや不安を分かち合い、何をすべきかを共に考え、自分がどうするか決定する力をはぐくむ手法だ。

「ピアカウンセリングでは、自分や他者の抱える悩みを否定せず丸ごと受け止め、今すべきことを見つけて行動に移していく、そのための力を養うことができます」

そう説明するのは、ピアカウンセリングを導入して思春期からの、健康的なライフスタイル作りに取り組む、自治医科大学の高村寿子名誉教授。2007年よりJICAの草

の根技術協力事業を通じ、同州の二つの保健区で保健局や地域の保健所などと協力し、主に15〜17歳の高校生たちを対象に、ピアカウンセリングの理論やスキルを伝えている。

日本では、ピアカウンセリングの第一人者として知られる高村さん。日本でも長年、従来の性教育・思春期健康教育の行き詰まりが叫ばれる中、自治医科大学看護学部で学生を指導しながら、20年以上にわたりピアカウンセリングの普及に尽力してきた。今では、思春期の性の健康を促進するための有効なツールとして、厚生労働省の国民運動施策「健康親子21」にも取り上げられ、自治体でも広く実践されている。

高村さんは04年、女性の健康促進

を図るJICAの支援の短期専門家として、ベラクルス州を訪問。その際に活用したピアカウンセリングの手法に現地の関係者が興味を持ち、現在の取り組みへとつながった。

**生き生きとした意味と
明日への希望に気付く**

3日間の研修を受けた高校生たちは「ピアリーダー」と呼ばれ、その後、自分たちの学校や他の地域の高校の生徒たちに、健康なライフスタイル作りに必要な情報やスキルを伝えていく。テーマは、「思春期妊娠」、「性感染症」、「家庭内暴力」、「デートDV※」、「アルコール中毒」など、地域にはびこるさまざまな課題が中心だ。同じ目線で意見や経験を分かち合い、仲間の言葉、考え、経験に触れる。大人から教わるのとは異なり、それらは彼らにとって身近でごく自然なものであり、心の中にすっと浸透していく。「パートナーができた時には、妊娠や性感染症のことを学び、その予防方法などを話し合いたい」。参加者は問題に対する正しい知識だけでなく、自分なりの考え、信念をしっかりと身に付け、帰って行く。



研修で学んだことをもとに、自分たちや地域の身近な問題をテーマとした模擬教育を行う高校生



日本のピアカウンセリングの事例などを学ぶため、2007年1月には現地保健区の関係者が来日。自治医科大学看護学部の学生とも交流した

「これは単なる性の健康教育というツールにとどまらず、実は生き方の教育でもあるんです」と高村さん。参加者の中には親から虐待を受ける

など、つらい境遇の中で不安を抱え、希望を見いだせずにいる者も少なくない。しかし、ピアカウンセリングで心を開き、自己と他者を受け入れることの大切さ、夢を持つ権利は皆に平等であることに気付く、「生き生きとした意味」や「社会の中で自分が果たすべき使命」を見つけ、本来の生きる力を取り戻していく。

そして今、活動は父兄や教師、地域住民などにも変化をもたらしている。当初、「放課後は働いて家計を助けるべきだ」と考えていた保護者や、授業への支障を懸念していた教師も、生き生きと活動するピアリーダーたちを見て、徐々に理解を示し始めた。現在は、保護者、学校、保健所の職員などで構成される支援組織を作り、若者たちの活動を地域一体となって見守っていきけるよう、その体制づくりに着手している。また、地元保健局がこの活動を州全体に広げていけるよう、自治医科大学が一体となって、ピアリーダー養成のためのマニュアル作りに取り組んでいる。

大人の一步手前の多感な時期に、自分の心と身体、そして自己実現の大切さを知り、生き生きと生きる力」を周りに広げていこうとする若者たち。そんな彼らの取り組みに、未来の地域の新しい姿を見た気がする。

※男女交際の中で起こる虐待や暴力。